市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
7 Jul 2021 Vol.314

ときめき人
Tokimeki bito

明治から受け継がれる登米能の伝承士

登米町・金谷

太郎丸 晃さん

たろうまる　あきら
1943年生まれ　　血液型／O型

Profile

大学卒業後、米谷工業高に勤務。おととしから登米謡曲会の会長を務め、登米能の継承に努める。達成感を感じる瞬間は、公演後の仲間との飲み会。

森舞台で舞を披露する太郎丸さん。登米謡曲会に興味がある場合は、登米公民館まで。
☎0220(52)2316

「能は一人ではできない。ミュージカルと同じで、一つの物語を演じ上げるために、役者や楽器演奏者、バックコーラスの地謡者など最低25人が必要」と話すのは、登米謡曲会の太郎丸会長。

登米謡曲会の発足は1908年。登米町に伝わる登米能の伝承を目指し活動している。主な活動は、市内各支部での練習と、その成果を発表し合う月例会での会員の交流。そして年に一度の集大成の場として、とよま秋祭りの宵祭りで、伝承してきた能を披露している。

太郎丸さんが謡曲を始めたきっかけは、「歩いていると、どこからともなく謡の声が聞こえてくる町を取り戻したい」と先輩たちが立ち上げた「謡を習う会」に職場の先輩から誘われたことだった。その後、登米謡曲会に入り、現在に至っている。

「文語体の台本を暗唱することは大変だが、好きなことなので、つらいと思ったことはない」と話す太郎丸さん。辞書を片手に難解な台本を読み解き、登場人物の心情を考えたり、プロの能を鑑賞したりと、楽しみながらも努力は惜しまない。

「登米能は登米町に伝わってきた非常に貴重な芸能。この伝統を無くしたくはない」。多いときには80人いた会員は徐々に減少し、現在は40人弱。高齢化も進んでいる。「おかえりモネ」でも取り上げられた登米能。放送をきっかけに、一人でも多くの人が登米能に興味を持ち、伝統を伝える会員が増え、後世へ受け継がれていくことを願い、今後も登米謡曲会の活動を続けていく。

編集後記

▼植樹祭を取材。参加した子どもたちは大人のサポートを受け、持ち慣れないくわを握って懸命に穴を掘っていました。根付いた苗木は次世代へ残す大切な森林資源として成長していきます。森のまちの自然はこうした地道な取り組みによって守られていることを学びました。(佐々木)

▼「おかえりモネ」にも登場した森舞台にて、ときめき人を取材。当日は雨の予報だったのですが、写真撮影の際はちょうど止み、その後、屋内へ戻ると雨が強く降り出しました。大事な場面で天気に恵まれ、ドラマの展開に近いものを感じました。(大立目)

▼ドラマの放送が始まり、今までは知らなかった登米市の魅力に気づかされています。広報紙を含めた市の広報事業も、登米の魅力や情報を市民皆さんに届けるためのツール。これからも自分たちが住む、働く、関わるまちのたくさんの話題を届けていきたいと思います。(三浦)

広報とめ（7月号）
発行日／令和3年6月16日　発行／登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集／まちづくり推進部まちづくり推進課 広報係
TEL.0220-22-2147　FAX.0220-22-9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp　印刷／川内印刷株式会社

登米市公式ホームページ
（新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。）https://www.city.tome.miyagi.jp/

登米市メール配信サービス
（防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。）
https://mail.cous.jp/tomecity/